

SWP/SW 体験版ユーザのための手引き

本資料は SWP/SW 体験版をダウンロードし、その機能、操作性を確認されようとしている方々のための操作ガイドです。
通常のワープロソフトとは異なる部分もありますので注意してお読みください。

1 インストール

SWP/SW の体験版ダウンロードは

<http://www.lightstone.co.jp/latex/download.html#demo>

より行えます。
操作手順について説明します。

Note: L^AT_EX で整形 (タイプセット) された文書は DVI と PDF の 2 種類の形式で作成されます。PDF での出力には場合には Adobe Reader、または Adobe Acrobat が必要となります。SWP/SW のインストールに先立ちこのいずれかをインストールしておいてください。SWP/SW のインストール時にそれらは自動的に検出されます。Adobe Reader は無料ソフトで、インターネットで「Adobe Reader」と検索してダウンロードページにアクセスしてください。

(1) シリアル番号

ダウンロードされた .exe ファイルをダブルクリックするとインストールが開始されます。その際、最初にシリアル番号の入力が求められます。体験版をダウンロードされた場合には別途ライトストーンより e-mail が自動的に送付され、その中に体験版に対するシリアル番号が記載されています。

(2) インストール先フォルダ

L^AT_EX 関連のコンポーネントの多くは UNIX 由来のものが多く、Program Files のような空白を含むフォルダ中にインストールされた場合には正しく動作できません。初期状態のフォルダ名 (swp55、または sw55) を変更せずにインストールを行ってください。

(3) ファイル拡張子の扱い

SWP/SW インストールの過程で

- .tex
- .dvi

というファイル拡張子に対し SWP/SW のコンポーネントを対応付けるかという問合せが表示されます。試用の段階では“いいえ”と応答しておくのが無難でしょう。なお、この対応付けは Windows Explorer の設定でいつでも変更できます。

Note: ここで対応付けられるのは欧文書用の TrueT_EX コンポーネントです。日本語文書の作成が中心となる場合には後述する WinForme のインストールの過程で pL^AT_EX コンポーネントとの対応付けを行ってください。

(4) ライセンス取得

SWP/SW のインストールが終了した時点でライセンス取得を求めるダイアログが表示されます。体験版であってもライセンスを取得しないと Viewer の機能しか使用できません。30 日間有効な評価用ライセンスを取得してください。製品版と全く同一の機能が使えるようになります。ライセンスの取得はインターネット経由で直ちに行えますが、ライトストーンに対し取得代行を e-mail、または Fax で依頼することもできます。ダイアログ上で「登録情報が記載されたファイルを作成し、申請する。」を選択してください。

(5) 動作環境の設定

ライセンス取得が終了すると欧文書の作成、編集が可能になります。しかし起動されたばかりの SWP/SW 上にはごくわずかのツールバーは表示されているものの、数式入力/編集に関係したツールバー等はみな非表示となっています。まず「表示」メニュー：「ツールバー」と操作し、基本操作に必要な以下の項目にチェックマークを入れてください。

- 数式テンプレート
- 記号キャッシュ
- 数式オブジェクト
- タイプセットオブジェクト
- 記号パネル
- フラグメント

個々のツールバーの周縁部を drag & drop することで配置を調整できます。

(6) Vista/7/8 特記事項

Windows Vista/7/8 上に SWP/SW をインストールした場合には、SWP/SW 起動時に毎回
“システムレジストリを更新できません。許可し

ますか？” というメッセージが発せられます。対応方法については

<http://www.lightstone.co.jp/latex/support1.html>
をご参照ください。

2 欧文書の作成

SWP/SW のインストールが終了すると欧文書の作成/編集が可能になります。以下の操作を試してみてください。

(1) ドキュメントシェル

SWP/SW 起動直後には“Untitled1”と表示された白紙の文書が表示されているはずですが、しかしこの文書のドキュメントクラス^{*1}は jarticle のため、日本語文書用の環境が設定されていないと処理することができません。この文書を閉じた後、「新規作成」ボタン  をクリックし「新規作成ダイアログ」を開いて  ください。このダイアログを通じて 150 種以上のシェル（文書作成用テンプレート）を選択することができますが、通常は「Standard LaTeX」シェルフォルダ中のシェルを使用します。ここに登録されているシェルの中で欧文用は次の 5 種です。

- Blank - Standard LaTeX Article
- Standard LaTeX Article
- Standard LaTeX Book
- Standard LaTeX Report
- Standard LaTeX Conference Proceedings

(2) 論文型シェル

まず論文作成用の **article** というドキュメントクラスを前提としたシェル「Standard LaTeX Article」を開いてみてください。

- (a) まずクラスファイルを確認しておきます。「タ

^{*1}「タイプセット」メニュー：「オプションとパッケージ」：「クラスオプション」タブと操作することで確認できます。

- 「タイプセット」メニュー：「オプションとパッケージ」：「クラスオプション」タブと操作し、クラスファイル名が article となっていることを確認してください。これによって欧文の論文として文書が整形されます。
- (b) 画面上に表示されているのは本文ですが、これとは別に表題に関する情報が付帯しています。「タイプセット」メニュー：「フロントマター」と操作しその内容を確認してください。
- (c) 本文中のいろいろな部分にカーソルを配置してみてください。青い太字の部分にカーソルが配置されているときには画面下部のフィールド中に Section とか Subsection といったタグが表示されます。一方、通常のテキスト上ではタグは Body Text になります。また赤で表示された数式部にカーソルを置いた場合には文字/数式の切替えボタン **T** が **M** に変化する点にご注意ください。
- (d) この状態では文書名は依然“Untitledx”となっています。タイプセット操作に先立ち文書の保存操作を行ってください。「ファイル」メニュー：「名前を付けて保存」と操作します。その際、次の点に留意してください。
- 「保存する場所」としてはここでは `\swp55` あるいは `\sw55` 中の `\temp` フォルダを使用してください*2。
 - 「ファイル名」としては article としましょう*3。
 - 「ファイルの種類」としては「Portable LaTeX (*.tex)」を選択してください。SWP/SW が存在しない環境でも取り扱える L^AT_EX 文書が生成されます。
 - 「キャラクタセット」としては欧文書の場合、「ASCII (Normal)」を選択してください。
- フルパス名が表示されていることを確認してください。ここで生成された T_EX 文書は一般の L^AT_EX 環境でも処理できます。
- (e) SWP/SW 環境下で T_EX のコンパイルを行い DVI ファイルを作成してみます。「タイプセット」メニュー：「英語タイプセット」：「プレビュー」と操作ください。TrueT_EX DVI Previewer によって 5 ページの文書が整形され表示されていることを確認してください。セクション番号や数式番号は自動的に生成されるため SWP/SW 文書上では明示されていません。
- Note:* TrueT_EX DVI Previewer 上での改ページ操作にはキーボード上の PAGE UP, PAGE DOWN キーを使用します。
- (f) PDF 文書を作成するには「タイプセット」メニュー：「英語タイプセット」：「PDF プレビュー」と操作します。Adobe Reader、あるいは Adobe Acrobat により整形後の文書が表示されたでしょうか。
- (g) `\swp55\temp`, または `\sw55\temp` フォルダ内に次のファイルが生成されていることを Windows Explorer を使って確認してください。
- article.tex
 - article.dvi
 - article.pdf
- (h) 欧文の論文を新規に作成する場合、「Standard LaTeX Article」シェルの内容を逐一置き換えながら進めるのが間違いのない方法です。しかし慣れてきたら全くの白紙からスタートするのも良いでしょう。その場合には「Blank - Standard LaTeX Article」シェルを使用してください。

文書名にはファイル名“article.tex”を含む

*2 パス名中に全角文字やスペースが含まれないのであれば他のフォルダでも構いません。

*3 任意の名前で良いわけですが、日本語名は使用しないでください。

(3) クラスオプション

クラスオプションを調整することで文書の様式を種々変更できます。例えば本資料のように 2 段組みの文書とする場合の操作を簡単に紹介しておきます。今回は報告書型のドキュメントクラスを使用してみましょう。

- (a) 「新規作成」ボタン  をクリック、「Standard LaTeX」シェルフォルダ中の「Standard LaTeX Report」を選択します。
- (b) クラスオプションを操作するためには「**タイプセット**」メニュー：「**オプションとパッケージ**」と操作し「**クラスオプション**」タブを選択します。ドキュメントクラスが **report** となっている点を確認してください。
次に「**編集**」ボタンをクリックするとオプションの一覧が表示されます。カテゴリとして「Columns」を選択、オプションとして「Two columns」を選択した後、「OK」を 2 度クリックしてダイアログを閉じます。
- (c) タイプセットに先立ち文書の保存を行います。「**ファイル**」メニュー：「**名前を付けて保存**」と操作後、次のような指定を行ってください。
 - フォルダとしては `\swp55\temp` あるいは `\sw55\temp` を使います。
 - ファイル名としては `report` としましょう。
 - 「Portable LaTeX」、「ASCII (Normal)」を選択してください。
- (d) ここでは DVI タイプセットを行ってみましょう。「**タイプセット**」メニュー：「**英語タイプセット**」：「**プレビュー**」と操作ください。各章に続く本文の部分が 2 段組みで整形されていることを確認ください。

Note: \TeX のコード記述部で Verbatim タグが使用されていますが、この部分では改行が行われません。このためカラム間の重なりが生じています。2 段組み文書として完成させるには多少の編集作業が必要です。

(4) 書籍型シェル

書籍型シェルの場合、報告書型に比べ様式はさらにフォーマルなものになります。

- (a) 「新規作成」ボタン  をクリック、「Standard LaTeX」シェルフォルダ中の「Standard LaTeX Book」を選択します。
- (b) 「**タイプセット**」メニュー：「**オプションとパッケージ**」と操作し「**クラスオプション**」タブを選択します。ドキュメントクラスが **book** となっている点を確認してください。
- (c) タイプセットに先立ち文書の保存を行います。「**ファイル**」メニュー：「**名前を付けて保存**」と操作後、次のような指定を行ってください。
 - フォルダとしては `\swp55\temp` あるいは `\sw55\temp` を使います。
 - ファイル名としては `book` としましょう。
 - 「Portable LaTeX」、「ASCII (Normal)」を選択してください。
- (d) 今度は PDF タイプセットを行ってみましょう。「**タイプセット**」メニュー：「**英語タイプセット**」：「**PDF プレビュー**」と操作ください。19 ページからなる文書が生成されたでしょうか。以下の点にご注意ください。
 - 表紙に続き目次が自動生成される。
 - 両面印刷が前提で、各章が見開き右ページから始まるような設定となっているため*4、空白の偶数ページが置かれることがある。
 - 本文に先立つ部分のページ番号にはローマ数字が使用され、アラビア数字の本文

*4 これらの設定はクラスオプションで変更できます。

とは区別される。

- ページヘッダ部に章や節の見出しが自動的に配置される。

この他、 $\text{T}_\text{E}\text{X}$ の機能を用いることによりさまざまな様式の文書が作成できますが、それらについては

- SWP/SW 使用の手引き
- SWP/SW 製品マニュアル
- SWP/SW BetterUse Web ページ

等をご参照ください。いずれもライトストーンホームページ

<http://www.lightstone.co.jp/>

よりアクセスいただけます。

Note: 「ファイル」メニュー内にも「プレビュー」、「印刷」といった機能が用意されていますが、これらは $\text{T}_\text{E}\text{X}$ の機能を用いない簡易印刷を企図したものです。高品位文書の整形、印刷には $\text{T}_\text{E}\text{X}$ コンパイルを伴う「タイプセット」メニューを使用するようにしてください。

3 日本語文書の作成 [1]

日本語文書を整形（タイプセット）するためには SWP/SW とは別に $\text{pL}_\text{A}\text{T}_\text{E}\text{X}$ 環境が必要になります。ライトストーンでは $\text{pL}_\text{A}\text{T}_\text{E}\text{X}$ 関連のコンポーネントに GUI 機能も付加した **WinForme** というパッケージをそのために提供していますが、問題はこれらの各種 $\text{pL}_\text{A}\text{T}_\text{E}\text{X}$ が Windows の環境変数に依存した実装となっているため、一つの OS 環境内では複数が共存し得ないという点にあります。お使いの PC 上に $\text{pL}_\text{A}\text{T}_\text{E}\text{X}$ をインストールするのが今回初めてという場合にはややこしい話はありませんのでセクション 4 にお進みください。既に $\text{pL}_\text{A}\text{T}_\text{E}\text{X}$ が存在する環境の場合、それを活かした形での、すなわち WinForme をインストールしない形での検証方法を以下に説明します。SWP/SW と $\text{pL}_\text{A}\text{T}_\text{E}\text{X}$ が連動した形での動作にはなりません、それでも SWP/SW

による生産効率の良さは評価いただけると考えます。

Note: WinForme まで含めた形での連動確認をご希望の場合には、まず既存 $\text{pL}_\text{A}\text{T}_\text{E}\text{X}$ のアンインストール作業が必要になります。手順については

<http://www.lightstone.co.jp/latex/kb0003.html>

をご参照ください。アンインストールが完了した時点でセクション 4 にお進みください。

(1) 標準シェルファイルを用いた検証

まず標準的なシェルファイルを用いて、それがお使いの $\text{pL}_\text{A}\text{T}_\text{E}\text{X}$ で問題なく扱えるかどうかを検証します。「新規作成」ボタン  をクリックし「新規作成ダイアログ」を開いて  ください。日本語文書用のシェルとしては

- `jarticle`, `jbook`, `jreport` 関連【第 1 世代】
- `jsarticle`, `jsbook`, `jsreport` 関連【第 2 世代】

の 2 タイプが用意されています。SWP/SW v5.5 に同梱されている WinForme 1.1 ではこの両者が扱えますが、 $\text{pL}_\text{A}\text{T}_\text{E}\text{X}$ 環境によっては第 2 世代 (`jsclass`) がサポートされていないことが考えられますので、ここでは第 1 世代のシェルを用いて動作確認を行います。

- 次のいずれかのシェルを選択してください。
 - Japanese Article [`jarticle`]
 - Japanese Book [`jbook`]
 - Japanese Report [`jreport`]
- 「ファイル」メニュー：「名前を付けて保存」と操作し、 $\text{T}_\text{E}\text{X}$ 文書の保存を行います。その際、次の点に留意してください。
 - 「保存する場所」としてはここでは `\swp55` あるいは `\sw55` 中の `\temp` フォルダを使用することにしましょう*5。

*5 バス名中に全角文字やスペースが含まれないのであれば他のフォルダでも構いません。

- 「ファイル名」としてはシェルに応じて `jarticle/jbook/jreport` とします*6。
- 「ファイルの種類」としては「Portable LaTeX (*.tex)」を選択してください。SWP/SW が存在しない環境でも取り扱える LaTeX 文書が生成されます。
- 「キャラクタセット」としては日本語文書の場合、「Japanese (Shift-JIS)」を選択してください。

(c) (b) で作成された TeX 文書を既存の pLaTeX で処理してみてください。日本語の DVI や PDF 文書が正常に生成されるはずです。

(2) 新規文書の作成

日本語用ブランクシェル

- Blank - Japanese Article [jarticle]
- Blank - Japanese Article [jsarticle]

のいずれかを用いて日本語文書を作成してみてください。LaTeX を直接用いて文書を作成する場合に比べると開発効率が改善されますが、それが最も顕著に現れるのは数式入力と表の作成でしょう。文書作成に絡む基本操作については

<http://www.lightstone.co.jp/latex/download.html#manual>

からアクセスできる“SWP/SW 使用の手引き”を参照してください。作成された文書のタイプセット方法については前項と同様、ファイル保存操作を介して既存 pLaTeX 環境と接続します。

4 日本語文書の作成 [2]

SWP/SW を用いて日本語の TeX 文書を作成することはできますが、それをコンパイル/タイプセットするためには WinForme のインストールが別が必要です。この中には

- pLaTeX
- dviout
- dvipdfmx
- 操作用 GUI

等のコンポーネントが含まれています。

(1) WinForme のインストール

SWP/SW の体験版をインターネットからダウンロードされた場合には、シリアル番号連絡用の e-mail がライトストーンから送付されているはずです。その中に WinForme ダウンロード用の URL アドレスが記載されていますので、そこからダウンロード、インストールを実行してください。

SWP/SW の体験版を CD-ROM で入手された場合には、その CD から WinForme のインストールが行えます。

いずれの場合も WinForme 関連コンポーネントは SWP/SW 本体とは別のフォルダ（デフォルトは `\ptex`）中にインストールされます。

(2) WinForme の動作確認

SWP/SW との連動確認に先立ち、WinForme 単体としての動作確認を行っておくことが肝要です。具体的な操作法についてはインストールガイドを参照ください。インストールガイドは

<http://www.lightstone.co.jp/latex/download.html#manual>

から PDF 形式でダウンロードできますが、同じものが体験版 CD 中にも収容されています。ここで行う作業項目には次のようなものがあります。

- dviout の初期設定
- サンプル文書（日本語）のテストコンパイル

Note: pLaTeX 環境で画像データを扱う場合、形式によっては Ghostscript と Susie plug-in という別のコンポーネントの組込みが必要になります。体験版の検証作業の一環でこれらについても動作確認を

*6 任意の名前で良いわけですが、日本語名は使用しないでください。

行っておきたいという場合には
<http://www.lightstone.co.jp/latex/kb0015.html>
 に従って組込み作業を行ってください。

(3) SWP/SW との連動確認

最後に SWP/SW 環境での日本語文書作成、Win-Forme との連動確認を行います。まず標準的なシェルを使って動作検証を行ってみましょう。

- (a) 「新規作成」ボタン  をクリックし「新規作成ダイアログ」を開いてください。日本語文書用の標準的なシェルとしては

- jarticle, jbook, jreport 関連 【第 1 世代】
- jsarticle, jsbook, jsreport 関連 【第 2 世代】

の 2 タイプが用意されていますが、ここではより機能の豊富な第 2 世代 (jsclass) を用いて日本語タイプセットの動作検証を行います。どれを使っても良いのですが、一例としてリスト末尾にある

- [jsbook] fullwidth を選択してみてください。

Note: シェルフォルダ中の Japanese Book [jsbook] を使用した場合、各行の横幅は全角 40 文字に制限される仕様となっています。その条件を除去したものが [jsbook] fullwidth です。

- (b) まずクラスファイルを確認しておきます。「タイプセット」メニュー：「オプションとパッケージ」：「クラスオプション」タブと操作し、クラスファイル名が **jsbook** となっていることを確認ください。これによって和文の書籍として文書が整形されます。
- (c) タイプセットに先立ち文書の保存を行います。「ファイル」メニュー：「名前を付けて保存」と操作後、次のような指定を行ってください。

- 「保存する場所」としてはここでは `\swp55` あるいは `\sw55` 中の `\temp` フォルダを使用してください*7。
- 「ファイル名」としては `jsbook` としましょう*8。
- 「ファイルの種類」としては「Portable LaTeX (*.tex)」を選択してください。SWP/SW が存在しない環境でも取り扱える L^AT_EX 文書が生成されます。
- 「キャラクタセット」としては和文書の場合、「Japanese (Shift-JIS)」を選択してください。

文書名にはファイル名“`jsbook.tex`”を含むフルパス名が表示されていることを確認ください。ここで生成された T_EX 文書は一般の pL^AT_EX 環境でも処理できます。

- (d) まず DVI タイプセットの動作確認を行います。「タイプセット」メニュー：「日本語タイプセット」：「プレビュー」と操作ください。25 ページからなる文書が生成されたでしょうか。以下の点にご注意ください。

- 表紙に続き目次が自動生成される。
- 両面印刷が前提で、各章が見開き右ページから始まるような設定となっているため*9、空白の偶数ページが置かれることがある。
- 本文に先立つ部分のページ番号にはローマ数字が使用され、アラビア数字の本文とは区別される。
- ページヘッダ部に章や節の見出しが自動的に配置される。

- (e) 今度は PDF タイプセットを確認します。なお、このシェルの場合には索引生成機能が設定されているため、それをコンパイルオプションで指定すべく、「PDF プレビュー」ではなく「PDF コンパイル」を使用します。具体

*7 パス名中に全角文字やスペースが含まれないのであれば他のフォルダでも構いません。

*8 任意の名前で良いわけですが、日本語名は使用しないでください。

*9 これらの設定はクラスオプションで変更できます。

的には「**タイプセット**」メニュー：「**日本語タイプセット**」：「**PDF コンパイル**」と操作し、「**索引の作成**」にチェックマークを入れます。jsbook.tex という文書に対して 3 パスのコンパイルが実行された後、SWP/SW 画面に制御が戻ってきますので、生成された文書をプレビューすべく、「**タイプセット**」メニュー：「**日本語タイプセット**」：「**PDF プレビュー**」と操作します。今回は 26 ページの文書が生成されているはずですが、最終ページに索引が生成されている点を確認ください。

(4) スライド作成

第 2 世代の日本語用ドキュメントシェル jsclass にはスライド作成機能が加わっています。今回はそれを検証してみましょう。

- (a) 「**新規作成**」ボタンをクリックし、今回は [jsarticle] slide1 というシェルを選択してみてください。
- (b) 「**タイプセット**」メニュー：「**オプションとパッケージ**」：「**クラスオプション**」タブと操作し、クラスファイル名が **jsarticle** となっていることを確認ください。さらにクラスオプションとして slide と papersize というオプションが設定されている点にも注意してください。
- (c) タイプセットに先立ち文書の保存を行います。「**ファイル**」メニュー：「**名前を付けて保存**」と操作後、次のような指定を行ってください。

- フォルダとしては \swp55\temp あるいは \sw55\temp を使います。
- ファイル名としては jsslide としましょう。
- 「**Portable LaTeX**」、「**Japanese (Shift-JIS)**」を選択してください。

- (d) 「**タイプセット**」メニュー：「**日本語タイプセット**」：「**PDF プレビュー**」と操作すると、スライド 6 枚からなる PDF 文書が作成されます。以下の点を確認ください。

- 数式もスライド用に大きな字体となっている。
- カラーの使用も可能である*10。

(5) 新規文書の作成

日本語用ブランクシェル

- Blank - Japanese Article [jarticle]
- Blank - Japanese Article [jsarticle]

のいずれかを用いて日本語文書を作成してみてください。pL^AT_EX を直接用いて文書を作成する場合に比べると開発効率が改善されますが、それが最も顕著に現れるのは数式入力と表の作成でしょう。文書作成に絡む基本操作については

<http://www.lightstone.co.jp/latex/download.html#manual>

からアクセスできる「**SWP/SW 使用の手引き**」を参照してください。

本説明書は SWP/SW を用いて作成されたものです。

*10 slide オプションに限らずカラーの機能は使用できます。